

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名	PARCウィル大東		
○保護者評価実施期間	2025年9月29日 ～ 2025年11月30日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 2名
○従業者評価実施期間	2025年12月1日 ～ 2025年12月19日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年12月20日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職（理学療法士・言語聴覚士）による支援体制が整っている。	PTは姿勢保持や運動機能の支援、STは摂食・嚥下・コミュニケーション支援など、それぞれの専門性を活かして訪問している。	現在は担当制になっているため必要に応じて、訪問する職種や同行訪問できる体制を整えていく。
2	訪問看護ステーションを併設している。	訪問看護ステーションを併設していることで、家庭での様子や医療的ケアの状況を把握しやすく、保育施設や学校での生活と比較・照合しながら支援を行うことができる。	訪問看護師と療法士によるケース会議や同行訪問の実施。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	人員不足により学校や保育施設との日程調整が困難。	児童発達支援や放課後等デイサービスの業務が多忙なため、訪問支援のスケジュール調整に十分な時間を確保することが難しい。	訪問頻度の優先順位づけを行い、支援の必要度に応じた調整を行う。
2	相談内容に応じた専門職の訪問が困難。	子どもの課題が多様化しており、支援内容が複雑になっている。専門職のスケジュールが固定的で、柔軟な対応が難しい。	ケース検討会を定期開催し、複数の視点から支援方法を検討する。
3	人間関係や心理的な悩みに対する支援が難しい。	心理職（臨床心理士・公認心理師など）が在籍しておらず、専門的な対応ができない。	個別で研修会の参加や他保育所等訪問事業所との連携を深めてスキルの向上を図る。